

静岡県社会体育施設指定管理者評価委員会による評価結果

令和7年9月25日
静岡県スポーツ・文化観光部
スポーツ振興課

1 趣旨

静岡県立水泳場、静岡県富士水泳場及び静岡県武道館については、令和5年度から第5期となる指定管理者による管理運営が行われています。

施設名	指定管理者	指定期間
静岡県立水泳場	静岡県スポーツ協会グループ	令和5年4月1日から 令和10年3月31日まで (5年間)
静岡県富士水泳場	静岡県富士水泳場マネジメントグループ	
静岡県武道館	静岡県スポーツ協会グループ	

これらの施設における管理運営が、利用者サービスの向上と管理経費の縮減という指定管理者制度の目的を達成しているか、また、公の施設として条例に掲げる設置目的の達成に貢献しているか等について、客観的な評価を行うため、第三者の委員からなる評価委員会を設置し、委員会による評価を行いました。

2 評価委員会の実施について

施設名	実施日	内容
静岡県立水泳場	令和7年8月25日	・指定管理者による事業実績説明 ・質疑応答 指定管理者による事業実績説明について質疑応答 ・意見交換及び評価 意見交換後、委員ごとに評価を実施 ・評価・講評 委員会としての評価の決定及び各委員からの講評
静岡県富士水泳場		
静岡県武道館		

(評価委員会) ◎=委員長、○=委員長代理

氏名	職名等	備考
佐藤 克昭◎	佐藤経済研究所所長	経済・経営/中小企業診断士
川口 良子○	合同会社 デザイン・アープ 代表	建築/施設管理
鈴木 寿子	静岡県スポーツ推進委員連絡協議会 副会長	体育施設利用有識者
前田 恭伸	静岡大学工学部教授	危機管理専門家
杉山 康司	静岡大学グローバル共創科学部教授	大学有識者/スポーツ経営学

3 評価について

以下の「評価の視点」「評価項目」に基づき評価を行いました。

評価の視点	評価項目		配点
○施設の管理運営を適切に行っているか ○競技力の向上及び指導者の養成を図るとともに、県民の健康増進とスポーツの振興に寄与しているか	①	経営管理	20
	②	管理運営体制	20
	③	利用者サービスの向上	20
	④	危機管理体制等	20
	⑤	求められる業務水準	20
計			100

4 年度評価結果について

評価区分は、「優」「良」「可」「要改善」の4段階で、各委員の採点の平均点に基づき決定しました。総合評価は各評価項目の得点の合計により決定しました。

施設名	静岡県立水泳場						
指定管理者名	静岡県スポーツ協会グループ						
評価	総合			優			
	評価項目別	評価項目	①	②	③	④	⑤
		得点	18	18	17	18	17
		評価区分	優	優	優	優	優
内 容							
主な評価点：良いと評価した取り組み等 提言：改善や一層の努力を求めたい点等							
主な評価点	<ul style="list-style-type: none"> 大会・合宿の誘致、情報発信の強化等を図り、計画を上回る大会数・利用者数の増加を達成している。 サービスの改善、向上にグループ・社員一丸となって取り組み、高い水準の利用者満足度を得ている。 						
提言	<ul style="list-style-type: none"> 伸び悩む利用者収入の増加と、光熱費を主に経費抑制へ実効性ある対策を講じ、収支改善するよう期待したい。 的確な利用者ニーズの把握と、効果的な広報・企画の工夫等に努めて、新たな利用促進につなげてほしい。 						

(評価区分)

評価区分	基準	意味
優	配点の85%以上	大いに評価できる
良	同 70～85%未満	評価できる
可	同 50～70%未満	普通
要改善	同 50%未満	改善を要する

<発言> ●委員 ○指定管理者

【静岡県立水泳場】

- 光熱水費が増えると収支が赤字になるとの説明だったが、制御が難しい問題だと思う。
昨年度灯油の使用料が増えているがどこに使用されているのか。またなぜ増加したのか。
- ガスボイラーが数ヶ月間故障で使用できなかった影響。通常時はガスと灯油の市場価格を見て使用量を調整していたが、それもできなかった。
- 光熱水費は高止まりしている。今年度についても昨年度と変わらくらいになるか。
- 今年度は目標値を定め、それを超えないようにしている。R6年度程度になる見込み。
- 自主事業の収入について伸ばす余地があるか。またどのような努力をしてきたか。
- スペースの問題がある。利用者からも新たな教室開催の要望があり検討しているが、施設のキャパシティが少なく、場所の問題でどのくらい増やすことができるか難しい。
プールに関しては一般の利用者もいるので、自主事業よりもコース貸しの拡大を考えている。
他県からの需要もあるため、一般とコース貸しを両立し、満足度を上げたい。
- バランスをうまくとっていただきたい。具体的にはどのようにしていくか。
- これまでは高齢者の一般利用が多かったが、飛び込みが常時できるのは県内で県立水泳場のみであり、その利用者が増えてきている。ここでしかできないことをアピールしつつ、ゆっくり泳ぎたい人とのバランスをみながら模索し、良い方向に持っていきたい。
- 事故報告について、どのような人がどういう状況で事故に遭ったのか。
- 1件目は70代の方がプールに飛び込みプールフロアと壁との隙間に足を挟んでしまった。対策として25m地点のフロアを外した。またフロアと壁の隙間を空けるようにした。
2件目のロープ巻取り機の事故については、大会参加者の高校生が、2人体制で行う作業を、片方が準備できていない状態で行ってしまったことが原因。
- 県アンケートの回答者285名について、自主教室や一般の利用者に一定期間行ったものか。
- そのとおり。
- 県のアンケートと自主教室のアンケートの内容が乖離している。年齢構成が異なり、自主教室のアンケートでは交通手段も分からず、戦略的にどのようにサービスを向上させたいのか見えにくいと思う。その点についてどのように考えているか。
- 比較対象としていなかった。両方のアンケートが一致するようなかたちに改善する。
- 分析をすることで利用者を増やしていくための重要なヒントになる。
- 広報について、SNSだけでなくLINEなどを使うのも手かと思う。
- 収支バランスがとれないということで、どうしようか検討しているところ。
- 市町のHPなどであれば安くできると思う。
- 参考にする。静岡市の広報などでも取り組んでいなかった。
- HPで今日の混雑状況見れるようにできれば需要あると思う。検討していただければ。
- パワーポイントの資料のテーピング研修について、資料に記載あるか。
- 独自にやっているもので、指定管理者評価委員会の資料には記載していない。
- 頻度や人数は。
- 職員対象に行っているもの。ほかに消防関係の研修など年に6回開催している。
- 毎年同じような資料で決まったことをやっているだけに見受けられる。動きのある研修を。